
生きるための考察と、よりよく死ねるための準備と

猫しゃんて

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

生きるための考察と、よりよく死ぬるための準備と

【Nコード】

N7742X

【作者名】

猫しゃんて

【あらすじ】

私が思ったことを書いてみた。
反省はしてないが、公開はしている。
でなきゃ、読んでもらえないからね。

（前書き）

思ったことをそのまま書いてみました

（ゝ・）v

ほんとはもっと書きたかったですが、長く書いたところで内容が薄くなるだけで結果は変わりません。

ですので、この長さで終了とさせて頂きます。

生きる。ということを考えていたら頭が痛くなっただが、この頭痛こそが生きてる証ではないだろうか。いや、それは違う。痛みは痛みであって、シグナルではない。つまりそれは反射だ。身体からの反射を生きるというのなら、死後硬直だって反応の一種なのだからある意味で死んだ後も生きているということになってしまう。よってこの案は却下。

生きる。とは何だろうか。恋をすることだろうか。しかしそうなら、もし世界が自分一人になってしまった時、私は生きるということを自動的に終了させられることになる。しかし、私はその後も生存し続けるだろう。生存と生きるは同義ではないが、相似ではある。つまり、私は『恋』という他者を必要とする行為がなくても生きていけるということだ。よってこれも違う。

では逆に、死ぬとはなんだろうか。死ぬというのは身体が生命活動を終了することである。しかし、そのみが死ぬということではないだろう。例えば、無趣味無職で家族もおらず街を徘徊していたら、それは死んでいるということにならないだろうか？ それともせそれは死んだように生きている状態なだけであって死んだというくくりには入らないのだろうか。

分らない。死ぬも生きるもよく分らない。結局のところ、人というのは死ぬために生まれてくるのだろうか。だが、それではちと寂しくないだろうか。だから私はこう思いたい。『人は、よりよく死ぬために生まれるのだ』と。どうせ死ぬことが決まっているのなら、より良い状態で死んだ方が楽しいし嬉しいじゃないか。私はそう思う。

では、と私は思う。今の私はよりよく死ぬるための準備をしているだろうか？ やるべきことを怠ってはいないだろうか？ これも

わからない。

わからないことだらけだ。だが、それを考えるのも人生の楽しみの一環だろう。

そういえば、人生というのは人が生きると書いて人生と読む。そして私は今、人生について書いた。

なるほど。私はちゃんと生きているじゃないか。そして、思考することによってよりよく死ぬための準備をしているじゃないか。

病気が事故か他の原因か知らないけど、私はいつか死ぬ。

どうか最期の時には、笑顔で死ぬよう準備をしていたいものだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7742x/>

生きるための考察と、よりよく死ねるための準備と

2011年10月20日23時06分発行